

総選挙・第3弾

民主党の正体

2012年11月20日
広瀬隆

誰でも知っていることだが、**民主党残留組**について、ハッキリさせておかねばならないことがある。

追いつめられた民主党は、惨敗が明白な選挙対策として、「自民党は原発再稼働論である。われわれ民主党は将来原発ゼロを政策とする」と、大嘘をついて、票をとろうとしている。

電力労組を母体とした最大の
原発推進政党が民主党であるこ
とは、公然たる事実だ。絶対に、
原発再稼働に猛進する。

大飯原発再稼働を強行した五人組（野田佳彦、枝野幸男、細野豪志、藤村修、仙谷由人）を地獄の業火の中にぶちこまなければならない。

大飯原発再稼働と大間原発の建設再開を決めた枝野幸男経産大臣は、週刊ポストで“まっ先に落選させたい政治家”ランキング原発政策部門で第一位となった。



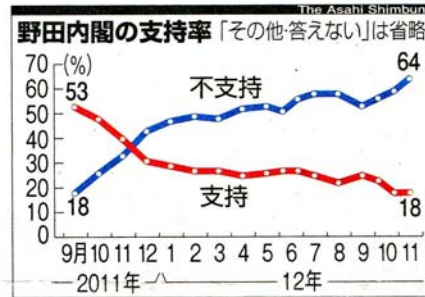
内閣不支持最高64%

本社世論調査 TPP「賛成」48%

朝日新聞社が10、11日に実施した全国定例世論調査（電話）によると、野田内閣の支持率は18%、不支持率は64%だった。支持率は前回（10月20、21日）調査と変わらないが、不支持率は野田内閣の発足以来、過去最高だった前回の59%をさらに上回った。

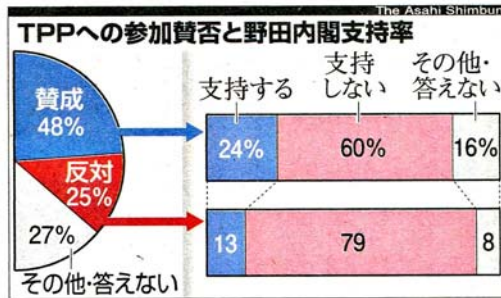
▼3面Ⅱ第三極への期待、7面Ⅱ質問と回答

野田佳彦首相は環太平洋経済連携協定（TPP）の交渉に参加する意向を固めている。そこでTPP参加問題への関心を4択で尋ねると、「大いに」と



「ある程度」を合わせて77%が「関心がある」と回答。TPPへの参加は賛成48%が反対25%を上回った。

ただ、参加賛成層でも内閣支持率は24%、不支持



率が60%。参加反対層の支持率13%、不支持率79%に比べると支持が高めだが、現状ではTPPへの交渉参加がさほど支持率上昇

に結びついていないよう

だ。衆院小選挙区の「一票の格差」が是正されないまま衆院選を行うことについては、「するべきではない」が前回の42%からやや増えて46%となり、「してもよい」の31%より多い。

関西電力大飯原発（福井県）の敷地内の断層が活断層かどうかを原子力規制委員会が調べている問題では、「調査結果が出るまで運転を止めた方がよい」が58%、「運転を続けてよい」は31%だった。

東日本大震災の復興予算が震災とは直接関係ない地域や事業に使われていることについては「大いに問題だ」が67%、「ある程度問題だ」が25%で、「問題だ」が9割に達した。

注意すべきは、ゾンビ民主党の中に、菅直人のように、「原発ゼロをめざすスタイル」をとりながら、党首選で野田佳彦を支持し、国民を裏切ってきた偽物がゾロゾロいることだ。ダラ菅が野田を支持したために大飯原発が再稼働されてしまったのだ。絶対に許してはならない。橋下徹と同様、裏切り者は、今後も裏切る。

当選するまでの選挙公約は、当選後にパッとゴミ箱に投げ捨てる。

デタラメ選挙公約は聞き飽きた。

一方、衆議院科学技術・イノベーション推進特別委員会の川内博史委員長（鹿児島県選出民主党）は、昨年、田中三彦氏、渡辺敦雄氏、後藤政志氏の三人を招いて、東電、保安院、原子力安全基盤機構（JNES）を相手にした非公開ヒアリングと記者会見を主宰し、フクシマ事故の原因が配管破損にあるという最重要の事実を明らかにさせた。

さらに川内博史氏は、昨年、「東京電力の節電要請は国民に対する恐喝である。電力不足は起こらない」という事実を立証し、さらにTPPと、消費税増税にも強烈な反対を唱え、「原子力規制委員会の人事は違法である」として、野田佳彦を糾弾してきた。

現・文部科学委員長で原子力規制庁も担当し、完全な即時原発ゼロ政策を掲げる彼が、なぜ民主党を離党しなかったか。彼は、離党と同時に始まる“総選挙の勝利”戦略を実現させる根回しに走ったが、他党が応えなかったからだ。ここに、総選挙の鍵がある。

今からでも遅くない。

国会最大のホープ

民主党の川内博史議員は
多数の同志を引き連れて
民主党を離党すべきだ!!